

令和6年6月12日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立山前小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

○計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

○実施している

・実施していない

(3) 自校における評価

令和5年度「学校評価」における「外国語及び外国語活動」の評価は、4段階で以下の通りである。

指導の方針	具体策	評価
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。(知・技)	英語の音声、発音、リズムを習得させる。(教師と子ども、子ども同士での活動を通じた学び合い)	3.06
身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力を養う。(思・判・表)	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、学習した表現を使って、自分の考えや気持ちなどを伝えさせる。	3.12
外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(主体性)	児童にとって興味や関心のある年中行事を積極的に取り上げるようにする。	3.06

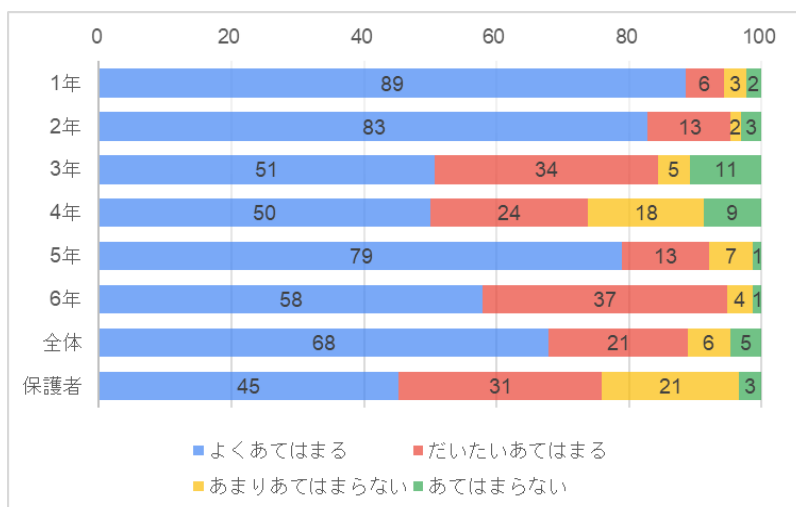
教師と児童、児童同士での活動を通して、楽しく取り組む様子が見られていた。

学年を重ねるごとに、外国語での会話や活動を通して、自分の考えや思いを伝えたり、外国語の表現に慣れ親しんだりしながら、活動をする様子が見られた。また、高学年では、チャットタイムなどでコミュニケーションが取れた時にうれしさを感じる児童が増えてきた。多様なゲームを取り入れたり、年中行事の内容を取り入れたりすることで、主体的に取り組むことができると思われるため、今後も重点策として指導していきたい。

(4) 学校関係者による評価「児童・保護者アンケートから」

① 【児童】英会話の授業は楽しいですか。

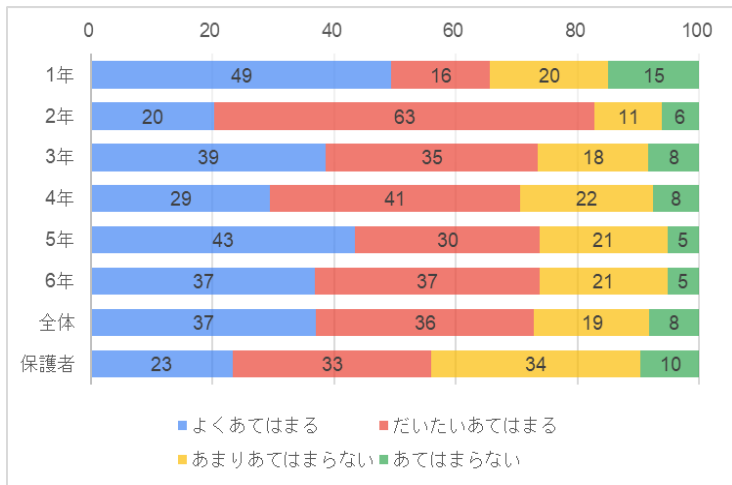
【保護者】お子さんは、英会話学習を楽しんでいますか。



【傾向】 低・高学年の90%近く、そして、中学年と保護者の75%ぐらいは、英会話を楽しんでいると回答している。

② 【児童】英語を聞いて、だいたいの内容がわかりますか。

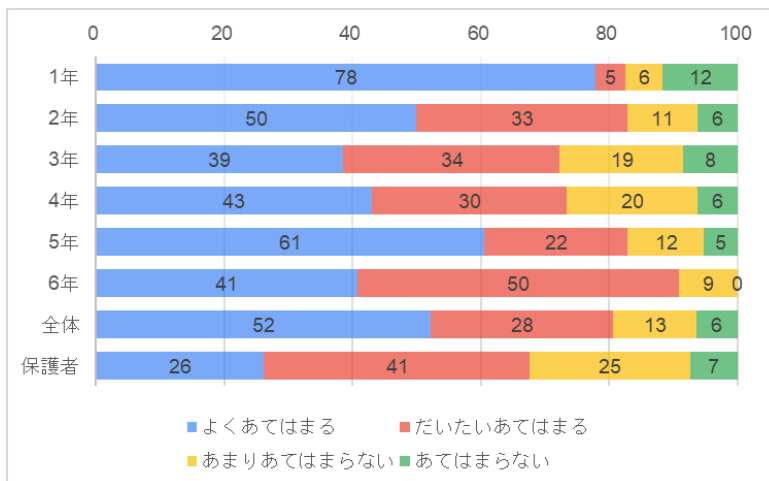
【保護者】英会話学習により、お子さんは英語に慣れたり、親しんだりすることができるようになりましたか。(保護者)



【傾向】“英語に慣れ、親しむ”ことは、足利市が英会話学習を始めた当初からの指標である。「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせると、約73%の児童がだいたい理解していると回答している。一方、保護者の44%が「あてはまらない」「あまりあてはまらない」と回答されている。今後の課題としてとらえ、改善を図っていきたい。

③ 【児童】英会話学習により、外国の言葉や文化をもっと知りたくなりましたか。

【保護者】英会話学習により、お子さんは外国の言葉や文化に関心をもつようになりまし



【傾向】全学年で「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせると約80%である。また、高学年になると、90%近くになっている。もっと知りたくなる言葉や文化を理解することで、人権感覚も磨かれていくと思われる。今後も力を入れたい活動である。

3. 実施の効果及び課題

A L TやE A Aの先生方との交流を通して、外国語や外国の文化についての学習が効果的に実施できたと思われる。A L TやE A Aの先生方の効果的なパフォーマンスや、体験的な活動を取り入れた授業展開の工夫により、どの学年でも楽しく活動をすることができた。多様な国の出身の指導者と英会話を通してふれあう英語チャレンジ DAY があることなど第 1

学年からの英会話学習の実施が、外国への言葉や文化への興味・関心が高まるという効果が見られている。

また、英会話学習で得られる交流活動は、多くの外国籍児童のいる本校にとっては大変効果的な取組でもある。言葉や文化を理解することで、人権感覚も磨かれていくので、今後も大切にしていきたい。

保護者の意識としては、どの視点においても「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と、3割近くの方が感じられている。英会話学習に対して高い期待を寄せられていることがうかがえる。児童が学んだことを家庭や地域でも生かすことができるような取組を考えていきたい。

4. 課題の改善のための取組の方向性

子どもたちへの指導においては、児童が喜びと感じている、自分の考えや思いを、外国語を通して表現できる（話す力）、言語や文化についての理解を深め、より一層外国語に慣れ・親しむことができる（コミュニケーション力）を育てていきたい。さらに、ALTやEAAと協力して、児童にとって魅力ある年中行事を積極的に取り上げるようにする。創意工夫を生かした授業を考えることで、児童が主体的に取り組めるよう支援していきたい。

さらに、保護者の高い期待に応えるために、学校における英会話学習の取組を積極的に参観していただいたり、部会等で紹介したりしていきたい。また、モデル校等の実践を参考に、小中のつながりを意識した取組も視野に入れ、学んだことを家庭や地域に生かすことができるように、工夫をしていきたいと思う。